

■□ 閉会挨拶

川口 啓子（大阪健康福祉短期大学教授）



ご参加のみなさま、お疲れさまでした。いまのお話で、モノをつくるということ、使うということの、さまざまなイメージが浮かんできたと思います。少し余談になりますが、私事を交えてまとめに代えさせていただきます。

私の家のLDKは、家具の多くが「無印良品」です。「無印良品」の場合他の商品と組み合わせが利きますので、いつのまにかリピーターになってしまいます。家具を買うとき、家の間取りや寸法を測っていきまると、インテリアコーディネーターが3D画面で配置を見せてくれます。

「こんな感じで配置できます。ここに置くと窓と少しかぶってしまいます。こちら側ですと50センチほど余裕ができます。いかがでしょう。」

買う方としては「ここにおいたらどうなるか」というイメージを持つことができます。そんなわけで非常に買いやすく、結果的にリピーターになってしまいました。

ちなみに購入した店舗は、茨木イオンモールの「無印良品」のお店です（笑）。

もうひとつ大切な理由があります。椅子やテーブルの脚を、こちらの要求に合わせて切ってくれます。これから高齢期を迎えるみなさまにとって座りやすい・立ちやすい椅子の高さ、手をつきやすいテーブルなど健康寿命の維持とかかわる大切なところ（55ページ第2分科会報告参照）。

3つめの理由としては、チェストや食器棚の10センチぐらいの脚が魅力でした。床と家具にすき間ができます。掃除機のノ

ズルが入ります。クイックルワイパーも入るし、ゴキブリホイホイも置けるし、じゃまなコード類は全部、そこに隠せます。これは購入の決定打でした。

今、それらチェストや食器棚のなかには、コープ商品のカップ麺やレトルトカレーなどが入っています（笑）。時々、「無印良品」のバターチキンカレーもちゃんと入れています。そんな感じで自分の生活を振り返ると、大半が「無印良品」とコープ商品でできている・・・？と再認識した次第です。

今日のお話を聞いて、私たちは、普段購入する商品をどのように・どれぐらい・どうやって使っていくのか—そのあたりを考えることによって、生産者や販売スタッフの方々との意思疎通ができていくことになるのだろうか・・・と思いました。

これからも、ときどきこういうお話を聴いて、SDGs（持続可能な開発目標）のことも思い浮かべながら、もちろん楽しくくらしながら、それでいて社会に貢献できるような、そんなくらし方を追求していきたいと思います。

「良品計画」の萩原さま、会場のみなさま、本日はありがとうございました。これで、くらしと協同の研究所第26回総会記念シンポジウム「現代の暮らしにおいて、わたしたちには何ができるのか？－『無印良品』のあり方と仕組みから考える－」のまとめとさせていただきます。ありがとうございました。